平成２２年度第３回石狩浜海浜植物保護センター運営委員会

日時：平成２２年 11 月 12 日（金）14 時～16 時 30 分
会場：石狩市役所 201 会議室
出席：安田秀子（会長）、瀬野一郎、石川　治、今中建男、松島肇、萬谷優子、渡邉千秋
　　事務局：有田英之（センター長）、内藤華子
傍聴者：なし
議題：1.平成 22 年度事業中間報告
　　2.平成 23 年度事業について
　　3.その他
資料：1.平成 22 年度石狩浜海浜植物保護センター活動中間報告
　　2.平成 23 年度事業計画案
　　3.センター見本園再整備計画「石狩浜縮景図」（松島委員提供）
　　4.銭函風力開発建設事業に関わる環境影響評価書案への意見書

会議録
1.平成 22 年度事業中間報告
内藤　＜資料説明＞
　資料補足部分について。1.普及啓発活動表：海辺の自然塾 5 月分テーマ「砂丘に生きる昆虫の世界（講師：小樽市総合博物館山本亜生学芸員」、7 月分テーマは「砂丘のアリたち～エゾアカヤマアリと生命のつながり（講師：北海道大学東正剛教授）」、7 月 31 日開催「夏休みこども自然教室」は「夏休み自由研究教室『砂の秘密を探ろう』」に修正。
来館者数が 9321 人と、昨年より 1500 人ほど多く、平成 12 年の開館以来最多だった。土日の来館者数が特に多く、6 月のハマナス等花の時期の週末の好天が大きく寄与したと考えられる。ただ、来館者数が 8500 人と 2 番目に多かった平成 19 年は、土日の天気が良い日は今年並みに多かったが、土日の来館者数は今年ほど多くなかった。今年は、道路に面して 5 本ののぼりを立て、一般の人が利用できる施設だというアピールの効果があったことや、企画展の内容、新聞に掲載される回数が多かったことなどの相乗効果と考えられる。

今中　6 月来館者数だんとつ多い。これの理由は。

内藤　6 月の天気が良かった。おそらく年間の好天日数で、特に 6，7 月の好天日数が大きく影響していると思われる。そこの部分の分析はまだしていないが。去年に比べると 6 月はダントツよかった。

有田　6 月の来館者数が多かったのに対し、9 月のサケ祭り時の来館者が昨年と比べると圧倒的に少ない。今年のサケ祭りは天候が悪く、シンボル塔からサケ祭りに来る人の駐車場の駐車台数を見ても、昨年と比べると圧倒的に少なかった。9 月の来館者数がサケ祭り時の天気の影響を受けているのは明らか。去年はサケ祭り期間の 1 日の来館者数は 200 人を超えていたが、今年は 200 人を超えていない。センターの前を通る人が多ければ多いほど来館者数が増える傾向にある。

瀬野　石狩湾新港東埠頭の北西側に砂が堆積して、そちらのレジャー利用者が増えている。海水浴場利用者がそちらへ流れていることも考えられ、この件については観光協会へも申し上げている。

松島　10 年間の来館者数の推移を示してほしい。あと、自然観察会の参加者の居住地はどこか。

内藤　こども自然教室の参加者は今年はほとんど市内から。自然観察会は、新聞掲載効果もあり、札幌市民の参加比率が高い。海辺の自然教室午前は、札幌からの団体利用。最近はウォッチングガイド等自然情報誌掲載の効果はほとんどない。

今中　夏休みミニ自然教室をお手伝いしていたが、来館者数が増えてくると、人数や学年などがわからなくなってしまうという状況だった。来館者の情報をきちんと把握できるようにすべきと思った。

内藤　自然観察会等事前申し込みで行っている行事は受付で把握するが、受付をしない自由参加の行事については、参加者に書いてもらうなどしてきちんと把握するようにしたい。

萬谷　環境学習プログラムの実施について、石狩中と石狩小はこちらから個別に活用のお願い等に行ったのか。また、去年はプログラムを利用したが今年は利用がない、という学校もあるのか。

内藤　石狩中、石狩小については、こちらから個別にあたったわけではなく、学校側の自主的な活用。他の学校については、２～３年継続した利用があったが今年はなかった、というところもある。

萬谷　ある学年になると必ず石狩浜について学習する、という規定のようなものがあるとよいのだが。

安田　企画展について、企画展を目当てに来館される方はいるのか。

内藤　企画展が新聞等に掲載されると、それ目当てに来館される方は増える。俳句展などは特にその傾向が強かった。

萬谷　9 月 4 日の海辺の自然教室は町内会単位での参加があったようだが、今後そのような機会を増やしていくのは良いと思う。

内藤　団体向けに利用できるという PR もしていきたい。ただ、自然案内人のボランティアさんが関わるので、出来る限り年度初めに近い時期でないと、申し出があっても受入れが難しい面もある。

松島　行事はいつごろどういった形で決めているのか。

内藤　今年の海辺フォーラムのような予算を伴う事業は、ちょうど今頃の時期に概要を決定する。予算を伴わないものは、年明け 1～2 月に概要、日程を決定。秋のものについては、年度が始って 4,5 月に概要が決まるものもある。

松島　HP 掲載はどのような形で行っているのか。

内藤　3 月か年度初めに年間スケジュールを掲載する。また各行事の開催日が近くなると、トップページからクリックで直接その行事の詳細がわかるようにリンクを張っている。

松島　イベントの掲載方法として、「こども向け行事」、「観察会」、「海辺の自然塾」など、カテゴリー分けしてトップページからワンクリックで直接各ページへ行けるような掲載方法にしてはどうか。そのカテゴリーの中に、意見送信のページもあるといい。意見は、白紙に書くのではなく、選択方式がよい。

石川　ホームページに関連して、見ている人から意見をもらうようなシステムは導入しているのか。

内藤　アドレスをクリックするとメールのフォームが開くという形をとっている。

石川　白紙に意見や要望を書くのは面倒で活用されにくいと思う。アンケート的なものの選択方式で意見や要望を送れるシステムを今後使っていくのがよいかと思う。

松島　環境学習プログラムなども、学校の先生が取り組んでみたいと思った時、直接問い合わせるよりは、アンケート・質問フォームがあれば、気軽に問い合わせできると思う。実績も掲載してはどうか。

安田　環境学習のページもホームページでもっと目につく場所に掲載すべき。

瀬野　弁天歴史公園では紙芝居を用いて説明して効果を上げている。

内藤　ボランティアさんに呼び掛けて、紙芝居や絵本等、できる部分からやっていければと思う。

松島　石狩浜ファンクラブのような市民組織ができれば、そこで、やりたいことをリストアップして、できることから取り組んでいけるのではないかと思う。

2.平成 23 年度事業について

有田　提示した資料は来年度の事業計画案になる。予算査定があり、まだ流動的であるということで聞いていただきたい。

内藤　＜資料説明＞

　普及啓発事業の新規事業について補足説明する。1-1 今年はふるさと海辺フォーラムを開催して海辺の自然環境保全に関するアピールを行ったが、次年度も継続的なアピールを続けていく必要があると考える。フォーラム・講演会や観察会等を組み合わせた連続講座としてふるさと海辺セミナーを企画。海浜環境を広く知ってもらう場、海浜保全への支援を呼びかける場としたい。

保護センター単独開催による PR、集客には限界があるので、市内外の施設、NPO 等と連携した開催としていきたい。

1-2 ふるさと海辺キャンペーンは、東埠頭周辺でレジャーを楽しむ人たちを対象としている。ちらし、ポスターの配布や出前の自然教室を行うなど考えている。センター単独ではなく、海岸管理者や観光協会関係の部署との連携、協議が必要と考えている。
1-3 今年開催した海辺フォーラムを来年は宮城県名取市で開催する準備が進んでいるようなので、引きつづき全国各地の保全活動の推進、石狩浜の活動の発信、各地の活動を結ぶ情報網づくりの場として参加を予定している。
2-3 海浜植物保護区拡大事業について、既存条例改正の必要がでてくるので、この冬から検討作業に入っていくことになる。
3-6 モニタリングサイトの設定について、平成 14 年、15 年に設定した海岸草原とはまなすの丘湿地部の植生を再調査する予定。

松島　自然観察会等の定例行事は 1 番の海辺セミナー事業が成立すればそこに統合される形になるのか。新たな事業として取り組むよりは、定例行事を少しブラシュアップして、海辺セミナーに組み込む形がよいかと思う。

安田　フォーラムは、石狩浜に関わる専門家が一同に会してお話するというイメージか。

内容　現段階ではそうだ。

萬谷　砂丘の風資料館との連携はできないのか。

内藤　図書館、砂丘の風資料館、公民館との連携事業ということで、今年は地図をテーマにした企画展示を開催した。連携というと抽象的だが、各館の目的に沿った上で共通のテーマについて展示やその他の事業に取り組んでいく形は今後とっていく予定。

萬谷　海岸に入るのにお金を払い、その半券を持っていれば自然教室に無料で参加できるなどのしくみがあると面白い。

内藤　将来的にはそういった海岸利用の形もイメージしたいが、すぐには難しい。海辺の啓発キャンペーンについては、石狩浜環境保全連絡会議の中でさらに議論する必要がある。

石川　シップの保護区の拡大にあたり新規指定するための条例改正に合わせて、他にどのような対策を予定しているのか。

有田　現在は当時の厚田村が設置した周囲の木柵が朽ちた状態になっているが、保護区指定となると、保護区であることを示す看板と、最低限の車侵入防止のための柵を設置することを考えている。
保護区指定による規制の内容は、はまなすの丘のように人の立ち入りを制限することはせず、車の立ち入りを制限する形を現段階では考えている。

安田　徒歩での立ち入りは OK とするのか。

有田　自由に歩いていいとするか、歩くルートを決めるかなど検討する必要がある。

松島　石狩川河口右岸地域の北石狩衛生センター東側も海浜植物群落の状態が良く残っている。現在でも釣り人等四輪駆動車の走行があるので、今後増えてくる前に対策を講じる必要がある。

松島　海辺の普及啓発キャンペーンは実際現場では誰が取り組むのか。

有田　石狩浜環境保全連絡会議の構成員でまずは行うことになるだろう。それにあわせて市民団体に働きかけて一緒に取り組めればいいと思う。

松島　手順的には石狩浜の保全と利用の方向性をまずは明らかにした上で、利用者に対する指導を行うべきと思う。

有田　保護と利用の方向性をはっきりさせるには、3 年、5 年の期間を要すると思う。ただそれまで何もしないのではなく、単管とロープですでに車乗り入れ防止対策を講じてきた区域については、もう規制をしてしまう段階にあると考える。ただ、どの機関が規制に取り組むのか。海岸管理者の北海道か、石狩市か。第一義的には管理者がすべき。ただ、規制の理由付けが難しいという理由で何年も経過している。いつかの時点で市として何らかの判断をすべきと考えている。
保護と利用の方向性についての検討と並行して法令による規制を進めていければと考える。そういった考えに基づき、まずはシップ原生花園の保護区指定。現行条例は、はまなすの丘の 16.5ha 保護のための条例なので、石狩海岸全域に適用するのは難しい。そこで全域に適用できるよう改正し、まずはシップ原生花園を指定する。条例が改正されれば、他の地域の条例による保護区指定も比較的進めやすくなるので、順次、海岸広範に拡大していければと考えている。

松島　ポスターちらし配布にあたっては、地元の小中学校など子どもたちにポスターちらしの作成、利用者への配布に関わってもらうと効果があると思う。実際他地域（福井県）での事例もある。

安田　そうすることで子どもたちも勉強になると思う。やるのであれば、次年度計画の立案が 11 月頃であることも念頭におくべき。

瀬野　花川地区の小中学校の活用が少ないようなので、もう少し働きかけていいと思う。

石川　学校だけでなく親がふるさと石狩について意識して子どもたちに伝えていく必要がある。親がまず石狩について知る必要がある。

安田　こども向け体験学習の場として、宿泊しながら石狩浜の自然についてじっくり学ぶ機会を設けられればと思って現在企画書を作成したいと思っている。

萬谷　自然だけでなく、人間が住んできた場所としての石狩という地域を子どもたちに伝えていければ

と思う。

瀬野　本町の能量寺が夏休みに子どもを集めて宿泊させていたことが過去にある。

安田　調査研究 6 番モニタリングサイトの設定はどんなイメージか。

内藤　海岸草原の中に平成 14 年と 18 年に調査した 5m×5mの植生調査区と、はまなすの丘の湿原の中に平成 15 年に調査した植生区があるので、そこの区の何箇所か注目すべき箇所で植生の状況を調べる予定。モニタリング（継続して自然環境の変化を見ていく）のための手法も考えている。定期観察のデータや地形のデータなどもそれに値するが、それらをどのように整理していくかについても考えていく。

安田　協力もボランティアさんか。

内藤　活動日を決めて呼び掛けていく。

安田　他に意見なければ、3.その他へ移る。

3.その他

松島　センター事業項目の中に見本園の整備とあるが、そこに関連して、造園学研究室のテーマとして見本園の再整備計画を学生に作ってもらった結果を紹介する。実効性については考慮していなが、ベースとなる考え方については、実際の整備に生かせていけるのではないかと思う。

造園学の考え方の中に、自然風景をコンパクトにまとめた縮景という考え方がある。現在のように、自然に任せて管理していくのも一つの考え方だが、自然の風景は保護センターの外に広がっているので、見本園はもう少し手を加えて、石狩浜の特徴である海からの距離に応じた植生勾配（ハマニンニク帯→ハマナス帯→海岸林）がわかるような形、石狩の環境を再現するような形でゾーニングしてはどうかと考えた。

問題は維持管理だ。海岸植生は海からの距離に対応した海岸の特別な環境の中で成立しているが、見本園の中は実際の海岸より環境がかなり安定していて、放っておけば内陸性の植物が増えてしまう。

学生が考えたところでは、環境学習で子どもたちが来館したときなどに、海浜植物の特徴である長い根っこの観察として掘り起こすなどすることで、観察という学習活動が管理の活動にもつながるというしくみだ。このような能動的な観察ができる場にしてはどうかという提案だ。

今後センターも開館から 10 年経ったので 10 年分の活動の総括も必要になってくると思う。活動、行事のほかにも見本園や館内展示についてもあわせて見直すことができたらと思う。

質問があれば。

安田　来館者が管理に携わるというのはとてもいいアイディアだと思う。

萬谷　縮景というのはいいアイディア。広い海岸について、見本園という限られた場で組み立てて考えることができるので。

松島　説明が口頭でもいいし、パネルでもいいので、あるといい。

内藤　木道の配置とか、アキグミの処理を考えると実際は大変そうだが。

松島　ボランティアさんとか、行事や学習の参加者、子どもたち、学生などが参加して作りだすというプロセスを学ぶ場にもなるのかなと思う。

瀬野　以前、見本園の一部区域に波板を入れてハマニンニクの侵入を防いでいたが、効果はどうだったか。

内藤　平成 14 年くらいに波板を入れてハマニンニクの侵入を防ぎ､砂浜に近い植生の維持を試みたが、最初の 2～3 年は効果が見られたが、5 年くらいでハマニンニクがどこからか侵入し、ハマニンニクの密生地になってしまった。

松島　海岸植生を安定した環境で手入れをせずに維持するのは困難。手入れをするなら、コストを減らして参加型で行うのがいい。
　登別市フォレスト鉱山では、ボランティアの人たちが里山空間をいろいろな利用の仕方をすることで、里山空間が維持管理されるというよい結果に至っている。子育て、森づくりなど、いろいろなメニューがあり、異なる目的の人たちが同じ空間を使っている。子育て目的で関わった人も、結果的に自然環境について学ぶことができる。大きな目的は自然環境の保全だが、それに対していろいろなアプローチをしている。同じような考え方で、石狩浜でも取り組めると思う。

安田　ぜひ取り入れていければと思う。

有田　ぜひセンターと連携して実行していければと思う。

内藤　展示についてもぜひ考えていただければと思う。

有田　次に、銭函風力開発環境影響評価書案への意見書について。銭函風力発電開発の環境影響評価書案の縦覧が 10 月半ばに終了し、これへの意見書を 10 月下旬の提出締め切りにあわせて石狩市長名で提出した。この意見書を資料として添付したのでご覧いただきたい。（意見書の概要説明）

安田　銭函風力開発環境影響評価書案意見書への回答はあるのか。

有田　最終的な評価書に意見を反映するかどうか、どのように反映されるのかは、こちらとしてはわからない。意見できるものでもない。今回の環境影響評価は法令に基づくものではなく、補助元のマニュアルに基づくものなので。この意見書提出については、札幌市と情報共有しながら進めた経緯がある。

安田　今後も銭函風力開発に関して運営委員会の中で提供できる情報があれば提供していただきたい。

有田　最後に、はまなすの丘木道の延長工事が 12 月に入ってから実施されることとなった。当初設置していて老朽化により撤去した 200m部分を再設置する。2 月半ばまでの工期の中で実施するとのこと。

安田　他に特になければ、これで会を終了としたい。

以上

確認しました

平成２２年１２月９日

石狩浜海浜植物保護センター運営委員会

会　長　　安　田　秀　子